

2022年12月理事会議事録

日 時：2022年12月24日（土）14：00～18：00

場 所：日本考古学協会事務所・オンライン会議

出席：辻 秀人・大竹幸恵・佐藤宏之・足立佳代・足立拓朗・岩本 崇・大坪志子・亀田直美・黒沢 浩・小菅将夫・澤田秀実・高倉 純・田尻義了・谷口 榮・谷畑美帆・野口 淳・肥後弘幸・日高 慎・藤沢 敦・藤野次史・水本和美・溝口孝司・高麗 正、監事：都築恵美子・萩野谷 悟、（事務局：林 純子・近藤絵里奈）

欠 席：岡林孝作

進 行：田尻義了

議 長：辻 秀人

田尻理事から、本日の出席者は27名（うち理事25名）で過半数に達しており、本理事会が成立することが報告され、議事に入った。

会員の訃報について

小菅理事から、神奈川県石田広美会員が2021年6月23日、東京都の内藤和美会員が2022年6月17日、福岡県の山中英彦会員が7月22日、岩手県の伊藤博幸会員が9月17日、熊本県の高木正文会員が9月23日、埼玉県の実川順一会員が10月6日、東京都の石井則孝会員が10月20日、長野県の田川幸生会員が10月26日、長野県の桐原 健会員が11月21日、山形県の佐々木洋治会員が11月23日に亡くなられたとの報告があり、哀悼の意を表した。

議案第704号 2022-23年度日本考古学協会賞選考委員会委員の選任について

佐藤副会長から、2022～2023年の日本考古学協会賞選考委員について新任3名・再任1名の委員候補者の推薦があり、理事と併せて合計6名の委員構成案が提示され、原案通り承認された。また、併せて今後の選考日程について説明があった。

議案第705号 名誉会員選考委員会の委員長・副委員長の選任について

大竹副会長から、名誉会員に関する規定及び内規の説明があり、名誉会員選考委員会内規に基づき12月17日（土）に開催された名誉会員選考委員会の協議を受けて、委員長に大竹副会長、副委員長に田尻義了理事を選任したいとの提案があり、原案通り承認された。続けて今後の選考日程について説明があった。

議案第706号 機関誌『日本考古学』編集委員会規定の一部改正について

黒沢理事から、近年の機関誌への投稿の傾向として古代以降の原稿が増えてきたこと、また各時代2名程度で対応できるように、機関誌『日本考古学』編集委員会規定第4条第1項に規定する委員の構成を「6名程度」から「12名程度」に改正したいとの提案があり、原案通り承認された。

議案第707号 退会会員の承認について

小菅理事から、埼玉県の*会員、新潟県の*会員、石川県の*会員、兵庫県の*会員、奈良県の*会員、和歌山県の*会員、高知県の*会員から2022年度をもつての退会届が提出されている旨の報告があり、承認された。

また、賛助会員ではフレンドシップ会員の*会員、学生会員の*会員から2022年度をもつての退会届が提出されている旨の報告があり、承認された。

報告第910号 公式サイトリニューアル計画について

大竹副会長から、協会の公式サイトリニューアルに向けてのアンケートについて、各委員会からの回答を今後検討していくことが説明された。続いて野口理事から、リニューアルの目的と方針が説明され、公式サイト検討ワーキンググループを中心に検討を重ねた公式サイト課題に対し、ページデザインやサイト構成を改変し、オンライン上の過去情報を整理して公開するリニューアル事業を来年度に行う予定であることが説明され、了承された。

なお、総大会時のオンライン配信に関わるシステムや会員管理に関わるシステム等の機能性の向上については、時間をかけて別途検討していく。

また藤沢理事から、2023年度大会実行委員会では協会公式サイトとは別に独自にWebサイトの作成を検討しており、協会公式サイトのご案内と区別して行う計画であるとの説明があった。

報告第911号 賛助会員学習交流会の報告

足立佳代理事から、10月29日（土）に賛助会員の学習会として企画された見学会「頼朝と義時の鎌倉を歩く」を、馬淵和雄会員を講師に賛助会員4名及び関係者を含め合計10名で実施し、好評を得たとの報告があり、了承された。

報告第912号 賛助会員の今後の企画計画について

大竹副会長から、カフェde考古学第4回から賛助会員の参加枠を設置したこと、また昨年度の企画で、新型コロナウイルスの感染拡大で中止とした栃木県上侍塚古墳発掘調査及び周辺遺跡・施設の見学会を、2023年3月上旬に改めて実施する予定であるとの説明があり、了承された。

報告第913号 2023年度第1回入会資格審査委員会の報告

谷畑理事から、12月10日（土）に第1回入会資格審査委員会を開催し、委員長に日沖剛史会員、副委員長に田尾誠敏会員が選出され、2023年度新入正会員の資格審査、及び賛助会員の予備審査を行った。①正会員については、審査の結果、申込総数33名のうち、資格基準を満たす者30名、保留3名と判断された。②賛助会員については、フレンドシップ会員7名、学生会員1名の申込総数8名であり、意見交換の結果、学生会員1名については「賛助会員に関する規定」第4条3項を満たしていないため再度の書類提出を依頼し、保留と判断された。③保留の正会員3名及び学生会員1名については、2023年1月14日（土）に、委員長と副委員長及び担当理事による第2回入会資格審査委員会を開催し、その後、

賛助会員については1月理事会で議案として入会を諮る予定である。④委員会での協議を基に、正会員入会審査における内規の解釈のための冊子の作成を検討中であるとの報告があった。

「賛助会員に関する内規」第4条3項の学生会員の入会にあたり「協会正会員である指導を担当する教員の推薦を要する」件について意見交換を行い、本要件について再検討することとなった。

報告第914号 2022年度福岡大会の総括と課題及び第89回総会の計画

田尻理事から、①2022年度福岡大会の総括があり盛会だった旨が報告されるとともに、オンライン開催上の反省点が整理され今後の改善点とする。②11月15日（火）及び12月20日（火）に企画担当理事及び第89回総会実行委員会である東海大学の有村誠教授及び宮原俊一准教授と打合せを行い、i) 第89回総会は対面参加とオンライン参加のハイブリッド方式で行い、発表者は原則的に会場である東海大学に来校して発表し、ポスターセッションも対面開催とする。なお、ポスターのデータはオンライン上で掲載し閲覧可能とする。ii) 新型コロナウイルスの感染状況から懇親会及び図書交換会の開催は難しいと想定される。iii) 発表本数に対する受入対応について確認したことが報告され、了承された。

続けて、総会時の人骨に関する研究発表申込について、人骨の関係者の了承の有無を当面は企画担当理事で確認するが、将来的には協会の方針を検討する必要があることが説明された。将来的な課題として共有するとともに、佐藤副会長から、人骨等の研究倫理が絡む発表には、発表申込の際に発表者の所属機関等の研究倫理委員会の審査を経ているかの確認が求められ、次回以降対応することとなった。

報告第915号 各委員会等における2022年度会議等報告について（その4）

1 広報委員会の報告

足立佳代理事から、10月19日（水）・11月14日（水）及び12月14日（水）に委員会をオンラインで開催し、①2022年度福岡大会の図書交換会中止に伴い、「考古学スクエア2022・秋」を公式サイト上で実施することとし、会員に掲載を呼びかけた。11月30日付けで公開し、引き続き応募があれば順次公開していく。②リレー・コラム「コロナ禍の考古学」に続く新しいリレー・コラムについて検討した。③公式サイトのリニューアルについて、公式サイト検討ワーキンググループからの意見をふまえて、委員会で検討した。11月14日（水）には会長・副会長・事務局長も交えて、公式サイトのリニューアルに向けての優先事項等の選定や見積り額の算定等の意見交換を行い、2023年度に実施予定の作業工程を確認したことが説明され、了承された。

2 埋蔵文化財保護対策委員会幹事会の報告

藤野理事から、11月12日（土）に幹事会を対面とオンラインのハイブリッド方式で、また12月10日（土）に幹事会をオンラインで開催し、①港区高輪築堤跡について、谷川章雄氏より情報提供があった。事業者であるJR東日本の公式サイト掲載の高輪築堤調査・保存等検討委員会の議事録の更新が5月以降公表されていないこともあり、今後の動向を引き続き注視する。②島本町越谷遺跡について、調査への照会に対する回答があり、今回の件

については一段落したが、今後の開発計画もあり、中長期的に対応するため情報収集を継続する。③広島市広島城跡について、三の丸地区で開発計画があり、改めて意見表明や要望書の提出を検討する。④出雲市大社基地跡について、一部開発が進んでいるものの開発計画が及んでいない場所もあり、行政と面談を行う予定である。⑤文化庁との懇談日程について協議したとの報告があり、了承された。続けて藤沢理事から、4月16日に開催した「シンポジウム～高輪築堤を考える～」の概要集を12月21日付けで発行し、印刷物をポスター配布機関や関係団体・執筆者等に配布するとともに、PDFを公式サイトで公開することが説明され、併せて了承された。

3 研究環境検討委員会の報告

日高理事から、12月7日（水）に委員会をオンラインで開催し、①12月10日（土）開催のカフェde考古学2022の実施計画について確認した。②協会公式サイトリニューアルにおける要望内容や総大会ポスターセッション等の来年度の活動計画について検討したとの報告があり、了承された。

4 機関誌『日本考古学』編集委員会の報告

黒沢理事から、10月31日（月）に編集委員会を開催し、①書評に英文要旨を付さないことへの変更に伴い執筆要項の改正案を作成した。②『日本考古学』第56号に掲載予定の投稿原稿の状況について確認した。③実態に合わせて委員の増員及び査読委員を今後廃止する方針とし、機関誌『日本考古学』編集委員会規定について関係箇所の改正を検討した。④J-STAGEへの公開にあたり、著作権の問題及び委託販売先である㈱吉川弘文館との委託販売年数を協議の上、公開を検討したいとの報告があった。㈱吉川弘文館との委託販売契約年数について意見交換を行い、今後調整することとした。

5 『年報』74・75について

亀田理事から、『年報』74（2021年度版）は12月5日付で刊行したとの報告があり、『年報』75については順次作業を進めていくことが報告され、了承された。

6 アーカイブス小委員会の報告

足立佳代理事から、11月29日（火）に小委員会を開催し、①1949～1960年入会の会員調査カードについて、劣化が進んでいることから原書226名分をスキャニングし、カードごとに中性紙封筒に保存した。②本年度のスキャニング委託について、予算額から2ヶ年に分けて実施する。③既にある機関誌『日本考古学』のPDFデータについては、検索機能を付与した編集加工の委託を行う。④2023年度の事業計画及び今後の作業予定について確認したとの報告があり、了承された。

7 社会科・歴史教科書等検討委員会の報告

小菅理事から、10月16日（日）及び12月11日（日）に委員会を開催し、①2022年度福岡大会のポスターセッションについて参加委員からの報告を受け改善点を検討した。②教科書通信18・19・20号について発行日程や掲載内容を検討した。③来年度総会のポスターセ

ッションの内容について協議した。④教科書会社との面談について日程を調整中である。⑤教科書への旧石器時代の記載について、他学会と連携して文部科学省へ働きかけを行う方向で検討している。⑥協会公式サイトに掲載するWebコンテンツについて協議した。⑦カフェde考古学第7回の開催概要について担当者から説明があったとの報告があり、了承された。

8 陵墓の報告

日高理事から、陵墓に関する今年度のこれまでの活動概要について報告があり、①立会調査見学が12月1日（木）に市庭古墳（平城天皇楊梅陵）で実施され、12学協会14名が参加した。②事前調査見学が12月9日（金）に畝傍陵墓監区事務所建替工事予定区域（神武天皇畝傍山東北陵附属地）で実施され、16学協会37名が参加した。③今年度の立入り観察について調整中であるとの報告があり、了承された。

9 カフェde考古学第6回「考古学の仕事場から」の報告

亀田理事から、カフェde考古学第6回を12月10日（土）に成城大学を配信会場として開催し、①対談形式で行い、関係者を含め69名の参加を得た。②事前アンケートが有効であったとの報告があり、了承された。

続けて足立佳代理事から、来年度も同様なスタイルでカフェde考古学2023を開催する予定であることが説明され、ポスター及びチラシの作成に向けて関係委員会に原稿が依頼された。

10 国際交流委員会の報告

溝口理事から、国際交流委員会の新たな活動として、国外における主要学会・研究会の開催・関連情報の収集と公開や、世界各地の動向の定期的レビューを行うことを計画しており、レビューの公開にあたっては協会公式サイトで行うことも検討しているとの説明があり、了承された。

11 英文機関誌編集委員会の報告

溝口理事から、①『Japanese Journal of Archaeology』（以下、JJA）Vol.10, No.1については1月刊行、No.2は3月刊行で準備を進めている。②JJA刊行に関わる科学研究費補助金について、今年度が最終年度であり新たな申請が必要だったが、対象となる募集要項が大幅に改定されたことから理事会や他委員会とも協議が必要であり、来年度の補助金申請は見送ることとした。そのため、補助金で対応してきたJJA刊行に関わる作成費やサーバー管理費・英文校閲料等を協会負担の予算として来年度は申請することが説明され、了承された。なお、今後の事業実施にあたり、国際交流委員会と連携しての協議が求められた。

12 災害対応委員会の報告

田尻理事から、文化遺産防災ネットワーク推進会議及び文化財防災センターの事業報告会に委員が参加したことが報告され、了承された。

その他

1 2023年度の各委員会等における予算要求書の提出について

谷口理事から、来年度の予算作成の日程について説明があり、各理事に期日までの予算要求書の提出が求められた。続けて辻会長から、来年度予算編成の方針が説明された。

2 安全保障関連三文書について

辻会長から、岩本理事から安全保障関連三文書について協会の立場を社会に明示すべきではとの提案があったことについて説明があり、意見交換を行い、本件の取り扱いについてはまず総務会で調整することとした。

以 上